

# 認知症の人と家族への援助をすすめる 第29回全国研究集会発表者公募のお知らせ

——「家族の会」では、次のとおり全国研究集会（全研）での事例発表者を募集しています。——

**名 称** 認知症の人と家族への援助をすすめる 第29回全国研究集会

**目 的** 世界でもっとも平均寿命の高い日本。国がすすめる認知症サポーターが350万人を越えるなど認知症の理解も大きく拡がりをみせています。しかしその反面、介護心中、虐待などの事件も後を絶ちません。早期に発見、診断できるようになっても支援の制度が追いついていない現実もあります。

そんな今、認知症の人も家族も安心して暮らせるために、医療、介護、地域はどのように連携すれば良いのか、はじまる前から終末期までの「認知症ケア」と「家族支援」について全国で取り組まれている実践を基にみんなで考え、認知症になっても、住みなれた自宅や地域で最後まで暮らし続けられる支援のあり方を、日本で一番人口が少ない小さな県、鳥取県から全国へ発信します。

**日 時** 2013年10月13日(日) 9:30～16:00 ※公募によるポスター発表（会場：情報プラザ）は12日(土)午後より実施します。

**場 所** 米子コンベンションセンター（ビッグシップ）多目的ホール・  
情報プラザ（鳥取県米子市末広町294）

**主 催** 公益社団法人 認知症の人と家族の会（担当／鳥取県支部）

**テ ー マ** **認知症の医療、介護、地域の連携を考える**

～本人も家族も安心して暮らせるために～

**内 容**

- 講演：「認知症とともに生きる時代を迎えて～認知症の行動科学～」  
講師：佐藤眞一氏（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
- 事例発表：応募者より選定した口述発表4名程度（1人15分程度）  
応募者より選定したポスター展示発表（2日間展示と4回発表）
- シンポジウム：「認知症にやさしい介護保険制度へ」  
厚生労働省、介護支援専門員、介護家族、医療職などを予定

※前日の10月12日(土)には、「鳥取県認知症フェスティバル」も同じ会場で開催されます。

## 公 募 要 領

- 発表内容：上記の目的・テーマをふまえて、実践や体験を発表してください。
- 発表者：立場や職種を問いません。どなたでも応募できますが、下記の立場を参考にして下さい。
  - ①本人の立場から：認知症と診断されたときの思いや、暮らしの中で家族や地域、社会へ対して望むこと。
  - ②介護家族の立場から：家族が認知症になった時、介護する「やすまらない」気持ちにどう向き合ったか。介護する人へのどんな支援が必要か。
  - ③介護保険サービスに関わる福祉の立場から：サービス提供を通じての認知症の人や家族への思い、認知症ケアの取り組み、介護保険制度での意見など。
  - ④医師、看護師など医療の立場から：医師、看護師、リハビリなど、医療の立場から、「認知症ケア」、「家族支援」についての実践や考え。
  - ⑤介護、看護を学ぶ学生の立場から：学びや体験をとおして、認知症の人や介護家族に対する思い、将来への夢。
  - ⑥地域や住民の立場から：どんな地域になれば認知症があっても本人や介護家族が安心して暮らしつづけられるか。地域での実践や考え。
- 発表時間：口述発表15分程度・ポスター発表（2日間展示と発表4回）
- 応募方法：発表の表題、趣旨（1,000字程度）、口述発表、ポスター発表の種別、氏名、職業、住所、電話を明記して、郵便またはEメールでお寄せください。
- 締め切り：7月1日（月）（選考結果については後日ご連絡します）

応 募  
問 い 合  
わ せ 先

公益社団法人 認知症の人と家族の会

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下る京都社会福祉会館2階

TEL(075)811-8195 FAX(075)811-8188 Eメール office@alzheimer.or.jp